



日本専門新聞協会加盟紙
国土交通省交通運輸記者会所属
発行所
東京都台東区池之端2-7-17
井門池之端ビル 〒110-0008
株式会社 観光経済新聞社
電話 03(3827)9800(代)
FAX 03(3827)9730

関西支社
大阪市北区天満2-1-20
天満松茂ビル 〒530-0043
電話 06(6354)6166・6290
FAX 06(6354)6292

北海道支局
札幌市中央区北6条西27丁目
1-3-705 〒064-0826
電話 011(624)5030
FAX 011(621)2530

東北支局
山形市緑町4-14-57
〒990-0041
電話 023(687)0702
FAX 023(687)0665

九州支局
福岡市博多区博多駅東2-5-28
博多梅成ビル2F 〒812-0013
電話 092(432)5525
FAX 092(400)9980

購読料年間 11,340円(税・送料込)
(税抜10,500円)

振替口座 00140-2-86888番
e-mail info@kankokeizai.com

震災を忘れない

東日本大震災の記憶や教訓を語り継ぐ「東北被災地語り部フォーラム2017」が1月29日、宮城県南三陸町のホテル観洋で開かれた。震災から6年が経ち、復興工事が進み景観が大きく変貌を遂げる中、国内外から約3,200人が参加し、震災の体験と教訓を後世に伝える方法を語りあった。1部はパネルディスカッション、2部の分科会では意見交換が行われた。最後に地元の中高校生の代表者らが「私たちは被災地の語り部となって10年、100年、千年先まで命を守ることを伝えていく」と宣言した。

実行委員長の阿部隆二氏は「語り部のネットワークをさらに強化し、語の部を継承することが自然災害の減少につながる。大震災の教訓を語り継ぐことはわれわれの責務だ」とあいさつした。オープニングで岩手県釜石市の「釜石あの日・あの時葛句・つたえ隊」の北村弘子さんと藤原マ

語り部フォーラム開催

南三陸ホテル観洋で

体験と教訓を後世に



あの日と向き合うことが大切。被災原因の検証と共有はまだ途上にある」と指摘した。



参加者は300人を超え、東日本大震災に対する関心の高さを見せつけた(写真上)、小中高校生の代表によるフォーラム宣言(同下)

災の被害を、次世代へどのように伝えるかを検討しなければならぬ。そして情報の共有と証言の収集を急がなければならぬ」と訴えた。

2017年2月11日

観光経済新聞

楽天トラベル
もっと世界と出会う旅。
楽天トラベル 検索
http://travel.rakuten.co.jp

宮本肇総支配人、小野寺寛NPO法人夢未来南三陸町づくり事業部長を始め
ス南三陸復興応援大使や

購読・見本紙お申し込み
お問い合わせはこちら
☎03(3827)9667
http://www.kankokeizai.com

地元の高校生代表らが「震災遺構と語り部を考へる」「未来へ、これからの語り部と伝承とは」「自然災害を学び減災へつなげる」KATARIBE(語り部)・世界への四つのテーマに分かれ意見を発表、白熱した議論が行われた。また、フォーラムに先立ち行われた「語り部バス」には約100人が参加。震災遺構の一つの「高野会館」や「南三陸町防災対策庁舎」などの被災地を回った。兵庫県淡路市の国際会館で、第2回「全国被災地語り部シンポジウムin西日本」が2月26、27日に開かれる。
【平塚真喜雄】